北海道の体育

体研連ミニ広報

No. 3

令和４年 11 月 17 日（木）

全道代表者研修会、全道大会上川大会　終了

令和４年 10 月 27 日（木）に全道代表者研修会が、28 日（金）に第 58 回北海道学校体育研究大会上川大会が開催されました。新型コロナウイルスの影響で３年ぶりの現地開催となる全道大会でしたが、両日ともに全道各地から多数の参加があり、充実した素晴らしい２日間となりました。

全道代表者研修会

○10 月 27 日（木）15：45～

上川教育研修センターにて

上川支部をはじめとする 13 支部より 30 名が出席され、役員、事務局員 16 名を合わせて 46 名の参加となりました。体研連　大牧　眞一委員長の挨拶で会が始まり、続いて全道大会上川大会　中間　靖之実行委員長のお話がありました。

体研連　大牧 眞一委員長

体研連　嶋本 剛　事務局長

各支部、事務局の自己紹介の後は、体研連　嶋本　剛事務局長より４月からこれまでの活動経過報告がなされ、更には令和４年度全国学校体育研究優良校・功労者として表彰される先生方の紹介がありました。今年度は、最優秀校１校と優良校５校、学校体育功労者６名が全国大会で表彰されます。誠におめでとうございます。また、第 61 回全国学校研究大会（滋賀大会）と今後の北海道学校体育研究大会について連絡がありました。

続いて、研究部より、翌日に控えた全道大会上川大会の研究の概要や授業づくりについて、加えて 11 月 26 日（土）に札幌市立幌南小学校で行われる第 32 回全道研究担当者研修会（実技研修会）について連絡がありました。また、会計部より会費の納入についての連絡がありました。

支部の活動状況報告では、各支部の研究主題や研究に対する基本的な考え方、令和４年度前期の取組や今後の研究授業、研修会の日程等の報告がなされました。各支部３分程度の短い時間ではありましたが、各先生方の自己紹介とそれぞれの支部での成果や課題、また、今後を担う若い世代の人材の育成について、密度の濃い報告となりました。

来年度の全道大会は、帯広での開催となります。十勝支部　下坂　吉彦　実行委員長の十勝支部大会に向けてのお話の後、体研連　菅原　彰副委員長の挨拶で閉会となりました。

全道代表者研修会各支部報告の様子

授業公開

上川支部は、「達成感のある体育学習～できる　わかる　納得する　活動を通して～」を研究主題として、以下の３つの視点を設定し、研究を進めてきました。

視点１：「できて達成感」を得られる教材の工夫

視点２：わかって達成感を得られる学習過程

視点３：支え合い、わかり合い、つながることで達成感を得られる指導と評価の一体化

≪美瑛会場≫

小学校　第5学年「ボール運動　ネット型　ソフトバレーボール」

授業者：美瑛町立美瑛小学校　植村　靖志　教諭

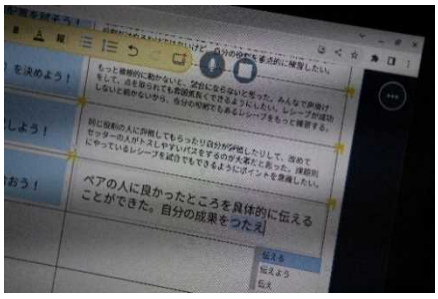
体育エキスパート教員として、美瑛町２校、東神楽町１校で授業を行うことに加え、年間指導計画作成、日常の授業計画、反省、体力向上の取組の推進、また幼保連携にも取り組んでいる植村教諭がソフトバレーボールの授業を行いました。

視点１については、①ボールを 50ｇのビニール製とし、空中浮遊時間の延長、操作性向上を向上、②コートの広さを基本としていたバドミントンコート外側のラインから内側のラインを使用し（６ｍ×５ｍ）、コートを狭くすることでラリーが続きやすいように、③ネットの高さをバドミントン 155 ㎝から 190㎝に上げ、アタックなどの強い返球を抑え、ボールの空中浮遊時間を延ばすようにしていました（植村教諭自作の塩ビパイプを使用）。視点２については、ロイロノートを活用して、課題を可視化させたり学習の振り返りを行ったりするなど、単元のつながりを意識しながら活動していました。視点３については、継続しやすく、共有しやすい評価方法の工夫として、毎時間の課題、ポイントを示したカードに自分の達成度に合わせて色づけし、蓄積することにより自分の達成度や成長の仕方を感じられるようにしていました。また、気付いたことや考えたことを伝え合う活動の中で、ロイロノートの作戦ボードを使用したり、兄弟チームで動画を撮影したりすることで技能の向上、達成感を得られるような工夫を行っていました。

中学校　第3学年「球技　ネット型　バレーボール」

授業者：美瑛町立美瑛中学校　　柴田　征宗　教諭

教員 4 年目（保健体育科としては 2 年目）である柴田教諭による、正規のコート（に近い）、ボール、ルールに則ったバレーボールの授業でした。研究の視点１の工夫として、単元を通じて準備活動の中で、拾う（レシーブ）、つなぐ（トス）、打つ（スパイク）の運動を取り入れること、課題をスモールステップ化し、達成感を感じられるようにしていました。視点２については、単元を通じ、学習の流れを統一すること、視点３については、継続的で、共有しやすい評価方法の工夫として、ロイロノートやチェックシートを活用、また振り返った内容をテキストマイニングや数値を使い、課題を視覚化させていました。実際の授業では、基本技能習得練習を２つのゾーン（レシーブ、トス＆スパイク）に分けて行った後、チェックシートを活用しながら、仲間の動きを見て分析、交流するという活動をポジション別に行った後、６対６の実践ゲーム（少し狭いオールコート）を行い、振り返りではロイロノートを活用し、うまくできたこと、できなかったこと、改善すべきポイントをまとめていました。



≪東神楽会場≫

小学校　第5学年「ボール運動　ゴール型　タグラグビー」

授業者：東神楽町立東聖小学校　　髙澤　良平　教諭

サッカー、フットサルが得意な髙澤教諭が、サッカーと同じゴール型のタグラグビーの授業を行いました。

視点１では、①単元を通した準備運動の設定により、ボール操作の技能を高めること、②コートを３つのエリアに分けることで、動き方をチーム内で共有しやすくすることの２点の教材化の工夫をしていました。視点２では、１時間の学習過程を提示することで、見通しをもって取り組むことができるようにしていました。視点３では、①ロイロノートによる振り返り、②動画を活用してチームの作戦を立てること、③体育帽子の色による自己評価の３点で、指導と評価の一体化を図りました。

授業では、「どこでパスを受けるとトライできるかな。」という課題を解決するために、２対２のタスクゲームを行いました。互いに動画を撮り合ったり、作戦ボードを活用したりして、相手のいないレーンに走りこむ動きや、タグを取られた味方の外側でパスを受ける動きを高めていました。振り返りでは、ロイロノートを活用し、取り組んだ動き方や、よりよい動きを動画を使って共有しました。最後に３対３のゲームを行う中で、１時間で高めた動きを生かそうとする姿が見られました。

東神楽町立東神楽中学校　第2学年「球技　ゴール型　バスケットボール」

授業者：東神楽町立東神楽中学校　　遠藤　敦志　教諭

35 年前の全道大会士別大会では、生徒として参加した遠藤教諭。今大会は授業者として、バスケットボールの授業を公開しました。専門は陸上競技で、マスターズ世界大会に出場予定だそうです。

視点１では、①単元を通したパス、シュート練習によりボール操作の技能を高めること、②段階を踏んだミニゲームの積み上げの２点の教材化の工夫を行っていました。視点２では、①毎時間同じ流れで学習を進め、見通しをもてるようにすること、②困り感を解決する準備活動やミニゲームを設定することの２点の工夫で「わかる」実感ができるようにしていました。視点３では、①動画の活用や見る視点を絞ることによる効果的な作戦会議、②ロイロノートを活用した振り返りの２点の工夫で、指導と評価の一体化を図っていました。

授業では、「相手のマークを外すために、何をすればよいのか。」という課題の解決に向けて、作戦会議とミニゲームを繰り返し行いました。撮影した動画を確認したり、タブレットで作戦を整理したりすることで、どのように動くとよいのかについて考えを深めていました。最後に、簡易ゲームを行い、１時間を通して考えたチームの作戦を実践しようとする姿が見られました。振り返りでは、取り組んだ作戦の結果と、今後の課題について、一人一人がロイロノートを使ってまとめました。相手のマークを外すために、パスを受ける場所、コース、スピードに着目して動くことに加え、組織的な動きを引き出すことをねらった授業でした。

全体会・分科会

公開授業後、美瑛町民センターにて全体会が行われました。大牧　眞一委員長の挨拶で会が始まり、中間　靖之実行委員長のお話がありました。コロナ禍において運動能力やコミュニケーション能力の低下が見られるからこそ、楽しい体育の授業をしていく必要があること等のお話をいただきました。続いて、本間　明路副実行委員長から、御来賓紹介がありました。その後、山崎　稔英研究小部長から基調報告、土屋　洋輔研究部長から上川支部の研究についてのお話がありました。最後に、下坂　吉彦副委員長による来年度に向けてのお話と、挨拶で、全体会の閉会となりました。

全体会後に行われた研究協議では、美瑛会場での授業と東神楽会場での授業とに分かれて分科会が行われました。両分科会とも、それぞれ公開された２つの授業について、活発な意見交流がなされました。上川支部の研究主題である「達成感のある体育学習　～できる　わかる　納得する　活動を通して～」で設定された３つの視点に沿って、たくさんの意見が出されていました。美瑛分科会では,北海道教育庁学校教育局健康・体育課　課長補佐　尾形　友秀氏より、東神楽分科会では、北海道教育大学旭川校准教授　高瀬　淳也氏よりご助言をいただき、それぞれの分科会が閉会となりました。

全体会

美瑛会場　分科会

東神楽会場　分科会

※討議内容等は、機関紙 121 号にも掲載されます。　　（文責：広報部　引地・島田・早川）